

日本史 B 学習指導案

授業者 岩手県立一関第一高等学校 教諭 熊谷 道仁

日時	平成18年10月25日(水) 6校時	実施クラス	普通科文系 3年A・B・C組 40名(3BHR)
単元名	第10章 近代日本とアジア 第一次世界大戦と日本・政党内閣の成立 本時授業テーマ 『Ifの日本史～原敬の政策に賛成? 反対?～』	教材名	「詳説日本史」(山川)・「新詳日本史」(浜島) 「日本史【予習】【授業】プリント」(担当者作成) 「課題プリント」(担当者作成) 各々の資料(生徒・担当者準備)
授業の目標	(1)「もし」自分が歴史的場面の“その時”にいたとして、その政策の実施について賛成か反対かの判断を下す疑似体験学習をとおして、歴史への興味関心を高めさせる。 (2)史実と自らの考えを対比させ、グループ内で発言する作業をとおして、客観的思考力を養う。 (3)歴史的場面における判断の選択肢を増やすために、資料を活用し、その利用の仕方(調べ方)を学ぶ。		
評価の観点と規準	(1) 関心・意欲・態度 提示された歴史的場面において、指示されたことに対して、積極的な発言をして授業に取り組むことができる。 (2) 思考・判断 自分の感情だけにとらわれずに、客観的に歴史の一場面における判断ができる。 (3) 資料活用の技能・表現 資料を読み込むことができ、自らすすんで調査・研究をしようとする。		
授業の指導計画	(1) 「政党内閣の成立」の小単元で原敬内閣の政策について学習する。(1時間) (2) 原敬の政策や経歴について、各自が調べる。(各自で設定) (3) 原敬の政策について、その時に自分が存在していたとして、賛成・反対の立場からどのような判断を下すのかを考える。(本時 1時間)		

本時の展開				
過程	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
導入 5分	事前に課題指示 (1) 原敬の人となりを知る。 (2) 原敬の政策の確認	原敬首相の政策とエピソードについて、図書館等で調べておく。 (1) 「原敬の素顔」について担当者の話を聞く。 (2) 「【予習】【授業】プリント」「資料」(自分で準備したもの課題プリント等)で政策を確認する。	課題は短時間で済ませよう指示 (1) テンポよく (2) 自学自習の時間とする。	レポート: 課題提出と点検 (1) 意欲: 顔を上げて聞く。 (2) 関心: 集中して資料を活用する。
展開 35分	(1) 原敬の政策【鉄道網の整備】についての討論 指示 5分 討議 10分 発表 20分	(1) 生徒の活動の流れ 担当者からプリント配付(導入の時間帯に)。生徒は、5人一組8グループに分かれる。 (8班編成・司会者・書記・発表者決定) 机は合わせて座る。(授業開始前に) 「今日の授業のねらい」を説明する。 「今日は、原敬の政策について考えます。これから私が示す原敬の政策について、各班ごとに賛成か反対の理由をそれぞれ述べてください。なお、賛成か反対かは私のほうで指示をします。そのような学習をとおして当時の社会や原敬はなぜそのような政策を選択したのかを理解してほしいと思います。」 原内閣において、 <u>鉄道網の整備</u> が検討された当時の背景を説明する。(担当者) 担当者から各班に、賛成グループ反対グループの指示をする。 グループごとに賛成の理由、反対の理由を考える。各班から発表する。 出された賛成・反対の理由を黒板に書き出す。 出された意見から相反する答えを探し、その点について再度両者が主張を述べる。	スムーズに配付。前日に指示 授業開始前に設定 「If自分が1920年に25歳だったら」を強調する。 簡潔に説明する。 担当者が決める。(生徒の考えとは必ずしも一致しない。) テンポよく発表させる。再度討議しやすい内容を提示する。	態度: 積極的に協力する。 理解: 担当者の説明(ねらいについて)が理解できる。 思考: 想像をすることができる。 意欲: 積極的に参加している。的確に記録をしている。 表現: 根拠のある内容を発表する。 思考: さらに深く掘り下げて考える。
集結 5分	(1) 原敬の政策【鉄道網の整備】の背景(史実)を学ぶ	原敬の時代の社会に関することを再度確認する。原敬がなぜ「鉄道網」整備を急いだかを知る。自分自身の考えたことと比べて、史実を確認する。	選挙や政権の維持との関係から鉄道網の整備の理由を説明する。その後の日本の鉄道のことにも言及する。	理解: 原敬の政策(鉄道網を中心に)を知り、当時の政策のあり方を理解する。